
道の駅 fumotto 南アルプス 基本構想

令和8年3月 南アルプス市



目 次

はじめに

1. 背景・現状と課題	2
(1) 南アルプス市の現状	2
(2) 他の計画との関係性	6
(3) 南アルプスインターチェンジ南側エリア開発の経緯	9
(4) 本市における課題整理	12
2. 道の駅設置の目的と位置づけ	17
(1) 道の駅制度の概要	17
(2) 道の駅の登録制度及び整備方法	20
(3) 道の駅登録のメリット	22
(4) 本構想の対象エリア	23
(5) 道の駅の設置目的	25
3. 道の駅のコンセプトと名称	26
(1) 道の駅のコンセプト	26
(2) 道の駅の名称	27
4. 交通機能の基本的方向性	28
5. 導入機能と施設	30
(1) 導入機能の整理	30
(2) 設置施設の整理	30
(3) 施設規模の整理	31
(4) 施設の整備方針	32
6. 整備計画	36
(1) 施設配置の検討	36
(2) 将来的な交通拠点エリアの考え方	37
7. 管理運営方式の考え方	37
8. 今後のスケジュール	38

はじめに

南アルプス市は、山梨県西部に位置し、雄大な自然環境と豊かな歴史・文化を併せ持つ地域です。市名の由来となっている「南アルプス山脈」は、標高3,000m級の山々が連なる日本有数の山岳地帯であり、北岳（きただけ）、間ノ岳（あいのだけ）、農鳥山（のうとりやま）など、日本百名山に名を連ねる高峰を擁しています。これらの山々を含む広大な自然環境は、ユネスコエコパークにも登録され、その価値は世界的にも高く評価されています。

また、本市は古くから、自然と人の営みが調和する土地として発展してきました。富士川舟運が盛んであった時代には、信州へ通じる交通の要衝として栄え、御勅使川扇状地を中心とした地域では果樹栽培が発展してきました。現在も、美味しいフルーツとともに、春から秋にかけて広がる四季折々の果樹園は、本市を象徴する風景の一つとなっています。

本市では、南アルプス連峰の麓に位置する立地特性を生かし、豊かな自然と利便性の高い都市機能が共存する「持続可能なまちづくり」を推進しています。近年、中部横断自動車道の開通や新山梨環状道路の延伸、さらにはリニア中央新幹線新駅の計画など、将来を見据えた広域交通インフラの整備が着実に進展しています。これらを背景に、コストコホールセールやコーセーの生産拠点をはじめとする企業立地が進み、子育て支援や移住・定住施策との相乗効果により、年間400人を超える転入超過が続くなど、人口は増加傾向に転じています。

このような環境の変化を踏まえ、本市では、中部横断自動車道と新山梨環状道路が交差する南アルプスインターチェンジ南側、約12ヘクタールの事業用地において、「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点の創出」を土地利用コンセプトとした再開発を進めています。

当該エリアでは、令和6年6月に地域の魅力発信拠点となる体験型複合施設「fumotto」が開業し、令和7年4月には大型集客施設「コストコホールセール南アルプス倉庫店」がオープンしました。これらの施設が生み出す相乗効果により、交流人口は大幅に増加し、本市の新たな玄関口として、これまでにない賑わいが生まれています。



1. 背景・現状と課題

(1) 南アルプス市の現状

① 位置

本市は、山梨県の西部に位置し、県都甲府市から西方へ約10kmの距離にあります。市域面積は県内で4番目の広さを誇り、甲斐市、昭和町、中央市、富士川町、市川三郷町、北杜市、韮崎市、早川町と隣接し、長野県および静岡県とも接する広域的な立地特性があります。

市域は、東西に細長い形状をなし、その大半を日本第2位の高峰・北岳（標高3,193メートル）を主峰とする南アルプス山系が占めています。

一方、平坦地である市の東部は、釜無川右岸に広がる御勅使川扇状地を中心に、樹園地や水田に囲まれるように、市街地や集落を形成しています。

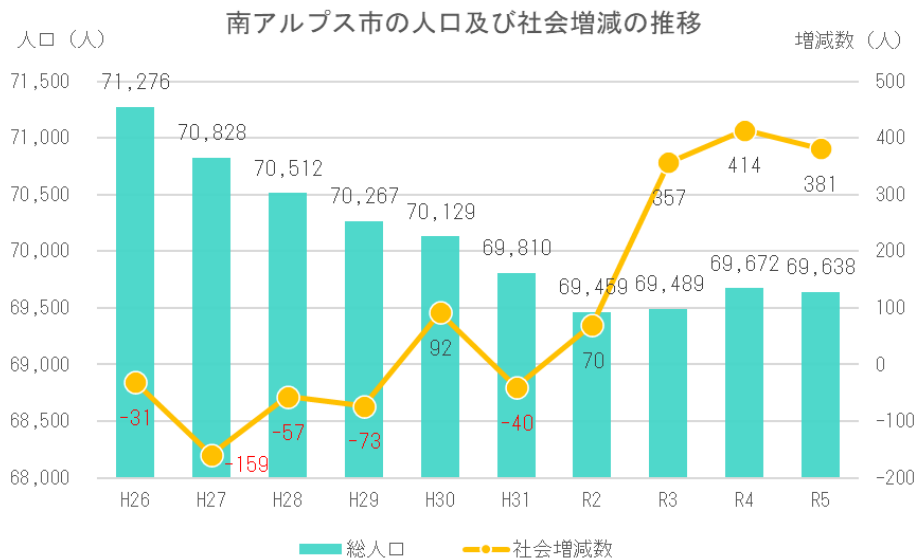
このように、本市は、山岳地帯と平坦地の農地や集落が共存する地形を有しています。



図：本市の位置関係

② 人口

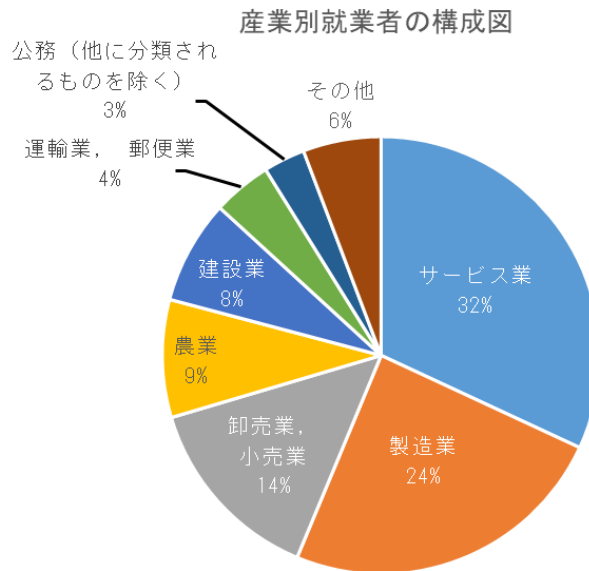
本市の人口は、令和2年にかけて減少傾向が続いていましたが、令和3年以降は増加に転じ、令和5年時点では約7万人弱となっています。社会増減を見ると、平成29年までは転出超過が続いていましたが、令和2年以降は転入超過に転じ、近年は増加傾向が続いています。



出典：山梨県常住人口調査（各年10月1日時点）

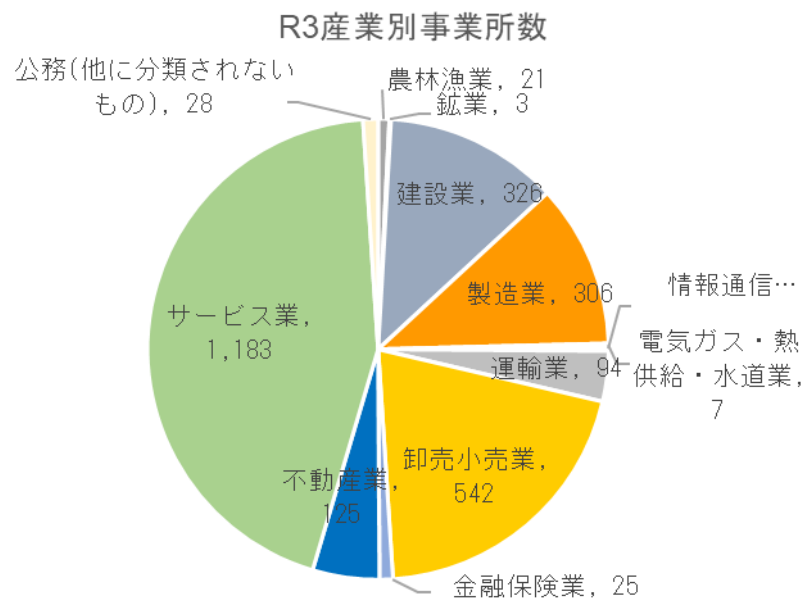
③ 産業

本市における産業別就労者の構成を見ると、サービス業が最も多く、次いで製造業、卸売業・小売業が続いています。



出典：国勢調査（令和2年）

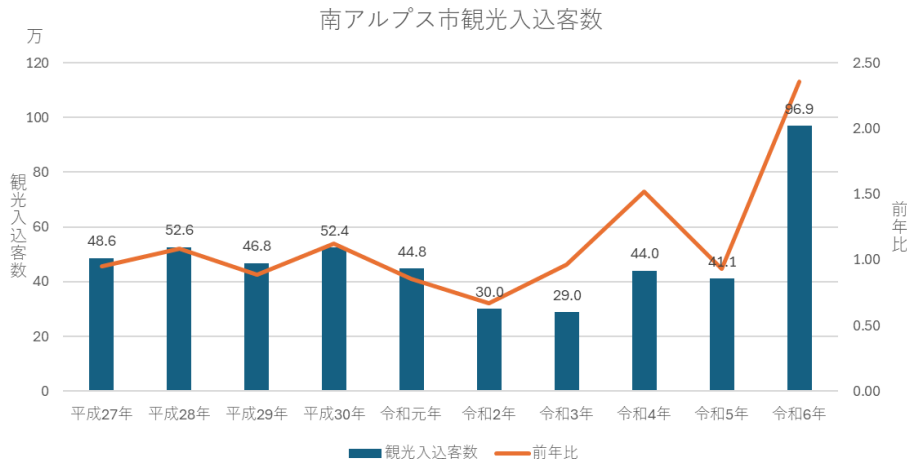
また、令和3年時点の産業別事業所数においても、サービス業が4割以上を占め、卸売業・小売業が約2割となっており、第三次産業を中心とした産業構造が形成されています。



出典：国勢調査（令和2年）

④ 観光

近年における本市の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に大きく落ち込みましたが、その後は回復基調に転じています。特に、令和6年には、「fumotto 南アルプス」の開業などを契機に、観光入込客数が急増し、対前年比で2倍を超える増加となりました。なお、グラフに示す観光入込客数は実人数によるものです。



出典：山梨県観光入込客統計調査報告書

本市の観光資源は、南アルプスを代表とする山々をはじめとした豊かな自然と、それらを活かした登山、トレッキング、アウトドアなどのアクティビティ、さらに一年を通して味わい楽しむことのできるフルーツが挙げられます。



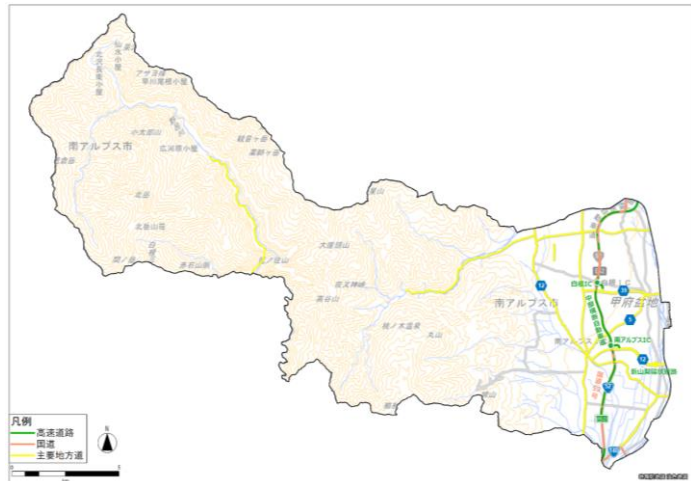
出典：南アルプス市観光パンフレット

⑤ 交通

本市の交通環境は、広域幹線道を中心に構成されています。市の東部を中部横断自動車道が南北に縦断し、その側道として国道 52 号が整備されています。

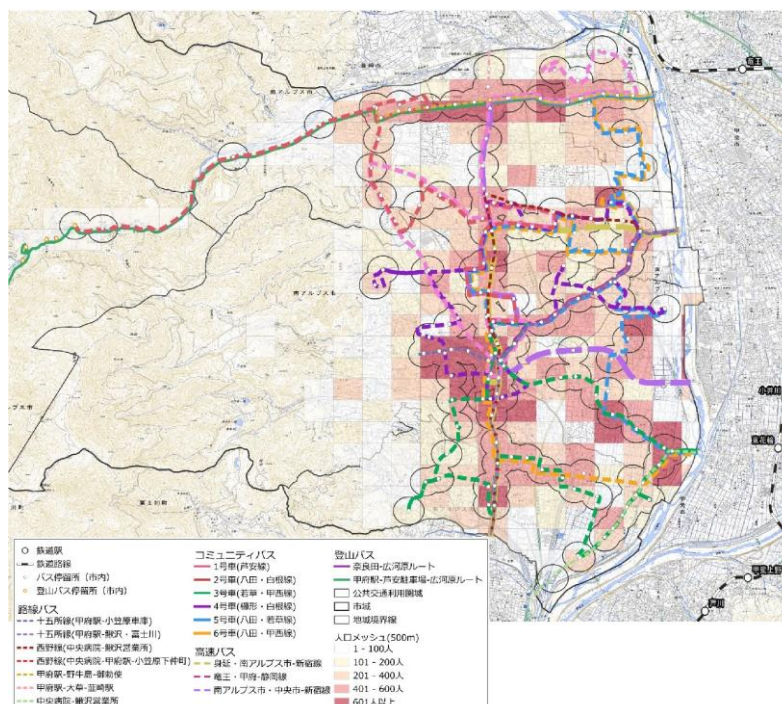
また、新山梨環状道路と県道 39 号（アルプス通り）が東西の主要幹線として整備されており、新山梨環状道路は南アルプスインターチェンジ、県道 39 号は白根インターチェンジにおいて、それぞれ中部横断自動車道と接続しています。

一方で、市内には、鉄道路線と鉄道駅が存在しないことから、自動車交通が市民生活や物流、来訪者の移動を支える主要な交通手段となっています。



図：本市の道路交通状況

本市における公共交通は、路線バス、コミュニティバスにより構成されています。市内には鉄道路線や鉄道駅がないため、鉄道を利用する場合には、バス等により竜王駅や東花輪駅へアクセスします。また、南アルプスインターチェンジを経由する高速バスが運行しており、広域的な移動手段として活用されています。



出典：南アルプス市地域公共交通計画 (R6.3)

(2) 他の計画との関係性

本構想を策定するにあたり、本市の他の計画との関連性を整理しました。

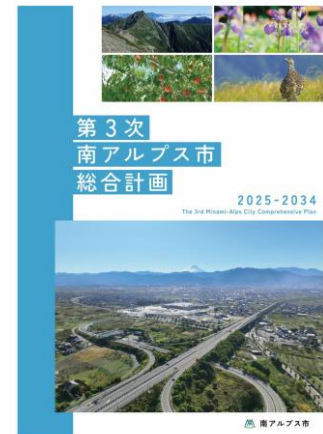
① 第3次南アルプス市総合計画（2025年策定）

政策4 「豊かな地域資源で、魅力・活力あふれるまち」の実現

中部横断自動車道の山梨・静岡間の全線開通やリニア中央新幹線の開業を見据え、「fumotto 南アルプス」を中心とした交流人口の増加や情報発信の強化を目指します。

施策21：観光の振興

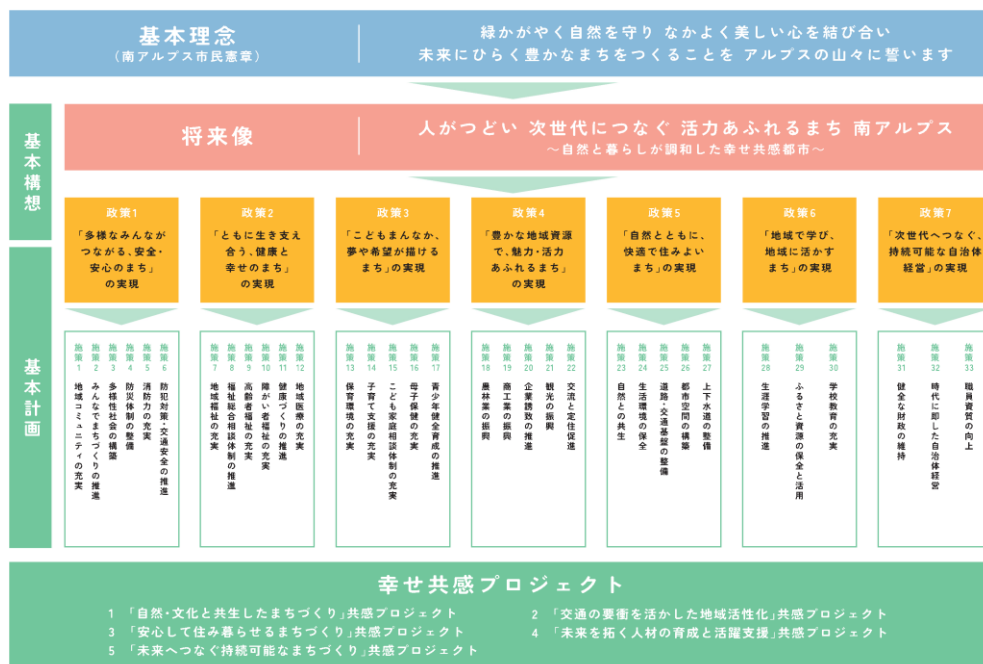
fumotto 南アルプスの整備及び活用により交流人口の拡大を図るとともに市内の観光拠点に誘導し、市全体の観光の活性化につなげます。



幸せ共感プロジェクト

◆ 2 「交通の要衝を生かした地域活性化」共感プロジェクト

- ・ fumotto 南アルプスを中心とした地域活性化策の展開
- ・ 付加価値の高い土地利用に向けた官民連携によるエリアマネジメントの推進
- ・ リニア中央新幹線開通効果を見据えたインフラ整備と国際化、広域化社会への対応
- ・ 交通結節点の強みを活かした企業誘致、国内外をターゲットとした観光振興の推進



出典：第3次南アルプス市総合計画

第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2025年策定）

基本目標Ⅱ：行ってみたくなるまちづくり

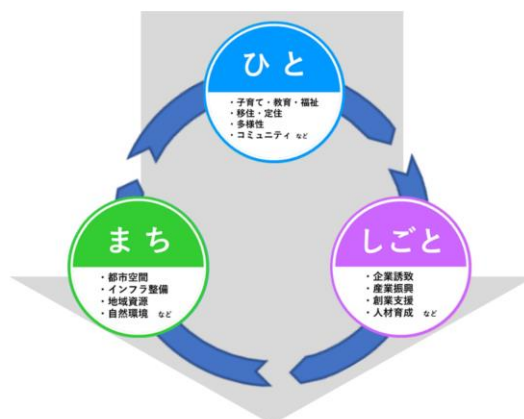
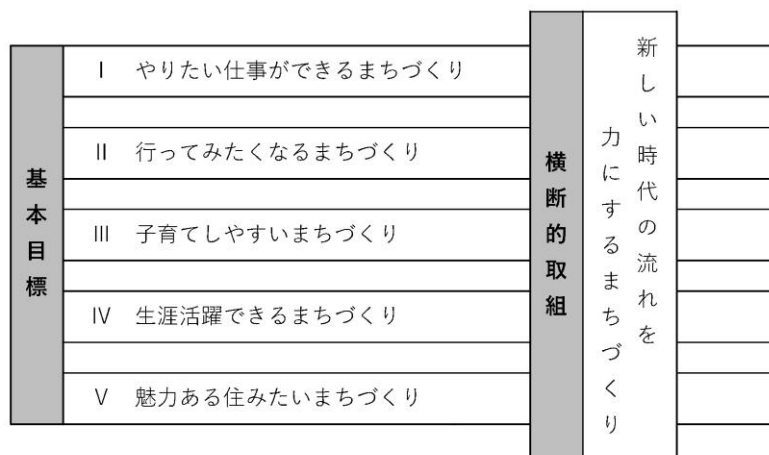
これまでの取り組みやシティプロモーションより多くの人の関心が高まりつつあることから、この流れを新たな人流に結びつけるため、人との交流やつながりを強化するとされています。

◆ 施策3 観光の振興

観光の振興では、多様化する観光客のニーズに応じたサービスを提供し、持続可能な観光を推進します。

また、自然や果樹に加え、歴史的・文化的資源を活用し、観光資源（ソフト・ハード）や観光交通施策の充実を図るとともに、これらを連携させ「面」としての観光を創出することで滞在時間や満足度の向上を目指します。

観光情報を効果的に発信し、fumotto 南アルプスを始めとする観光拠点を活用した市内外の交流人口の拡大と観光の活性化を図ります。



地域ビジョン（目指す姿） 新たな交流がつながりを生み 次世代を育む 住みやすいまち

出典：第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略

② 南アルプス市都市計画マスタープラン（2026年策定）

まちづくり目標3 市の魅力を発信し、交流と賑わいを創出するまちづくり

自然の美しさや歴史・文化資産を活用し、来訪者がまちの魅力を感じられるような環境整備を進めます。地域資源の保全を踏まえつつ、文化財を中心とした散策路の整備や、農園も含めたまちの資源へのアクセス拠点の開発など、市民が発信し、交流できる基盤をハード・ソフトの両面から整備していきます。

また、中部横断自動車道の全線開通やリニア中央新幹線の開業など、広域交通の変化に応じて、まちの産業の発展および交流のための拠点となる南アルプスインターチェンジ周辺の開発を進めます。

リニア中央新幹線開業を見据えた土地利用の方針

◆ 集い繋がる公共交通機能の形成

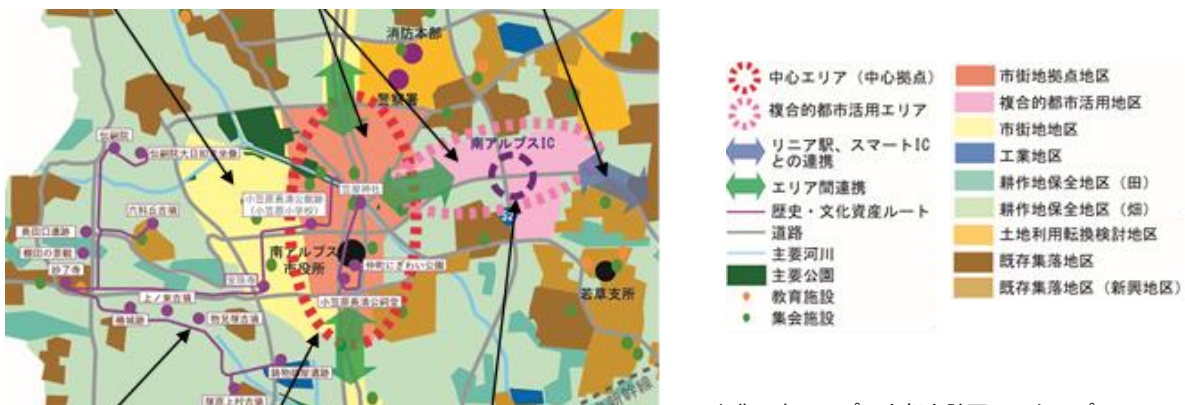
将来都市構造図に示される「複合的都市活用エリア」の南アルプスインターチェンジ周辺に、交通・観光・交流の受け皿となる「交通ハブ拠点」を整備し、観光の振興や交流の促進の観点から、観光施設との連携を図るとともに、必要となる機能や設備の導入を検討します。

また、市民の利便性の向上を図る観点から、市内の公共交通との連結や新たなバス路線の設置などを検討します。

市街地開発の方針

◆ 南アルプスインターチェンジ周辺の開発の推進

リニア中央新幹線の開業を見据えたインフラ整備の一環として、「南アルプスIC南地区地区計画」に基づき、（仮称）リニア山梨県駅との連携および市内へのアクセス強化を目的とする交通拠点の整備を進めるとともに、集客交流拠点としての南アルプスインターチェンジ南地区の機能充実と段階的な整備を図るため、「fumotto 南アルプス」の機能向上と適切な更新を推進します。



出典：南アルプス市都市計画マスタープラン

（３）南アルプスインターチェンジ南側エリア開発の経緯

本市では、中部横断自動車道の開通、新山梨環状道路の延伸、さらにはリニア中央新幹線新駅計画の進展により、広域交通ネットワークの整備が着実に進んでいます。近年、これらの基盤整備を背景に企業立地が加速し、子育て支援や移住定住施策との相乗効果によって転入超過・人口増加が続くなど、新たな成長段階を迎えています。

こうした環境変化を踏まえ、中部横断自動車道と新山梨環状道路の結節点となる南アルプスインターチェンジ南側エリアにおいて、「南アルプスIC新産業拠点整備事業」を推進してきました。本事業では、市の玄関口にふさわしい、「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点の創出」を基本コンセプトに、賑わいと活力を生み出す拠点の形成を進めています。

令和6年6月には地域交流施設が開業し、令和7年4月には大型集客施設であるコストコホールセール南アルプス倉庫店が開業しました。これらの相乗効果により、広域からの来訪者が大幅に増加し、本市の玄関口にこれまでにない新たな人の流れが創出されています。

本エリアでは、広域集客を担う「商業機能」、地域の魅力を発信する「交流機能」、人と地域がつながる「観光と交通の結節機能」を一体的に整備し、それぞれが有機的に連携することで、南アルプスの自然と調和した活力ある都市景観を形成します。

さらに、この拠点を起点として、交流人口の増加、地域マーケットの拡大、雇用創出、定住促進へと波及させるとともに、周辺開発の誘導やエリアの回遊性の向上を図ります。これにより地域経済の自立性を高め、自主財源の確保につなげることで、本市が目指す「持続可能なまちづくり」の実現を目指します。



① 南アルプス I C南地区地区計画（2023 年都市計画決定）

地区計画の目標

地区周辺の住環境や産業との調和を図りつつ、優れた交通環境と地域の特徴を活かした集客、交流、交通機能を誘導するとともに、地域の防災機能の向上を図り、市の玄関口に相応しい「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点」の形成を目指す。

土地利用の基本方針

● 集客ゾーン

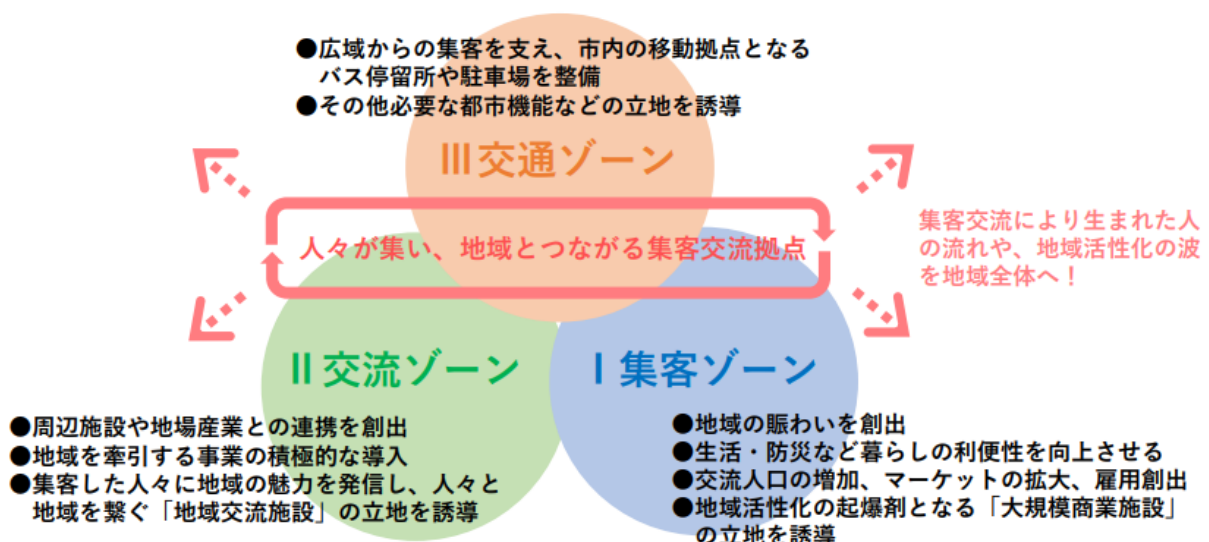
地域の賑わいや、生活・防災など暮らしの利便性向上を創出するとともに、さらにこれら起爆剤とした交流人口の増加や地域マーケットの拡大、雇用の創出、定住の促進など、地域経済の活性化のため「大規模商業施設」の立地を誘導する。

● 交流ゾーン

周辺施設や地場産業との連携及び地域を牽引する事業の積極的な導入を図るとともに、「大規模商業施設」との相乗効果により、地域の魅力を発信し、多くの人々と地域を繋ぎ、地域ブランド化や地域課題の解決を図るため「地域交流施設」の立地を誘導する。

● 交通ゾーン

広域からの集客を支えるとともに、市内の移動拠点ともなるバス停留所や駐車場、その他必要な都市機能などの立地を誘導する。



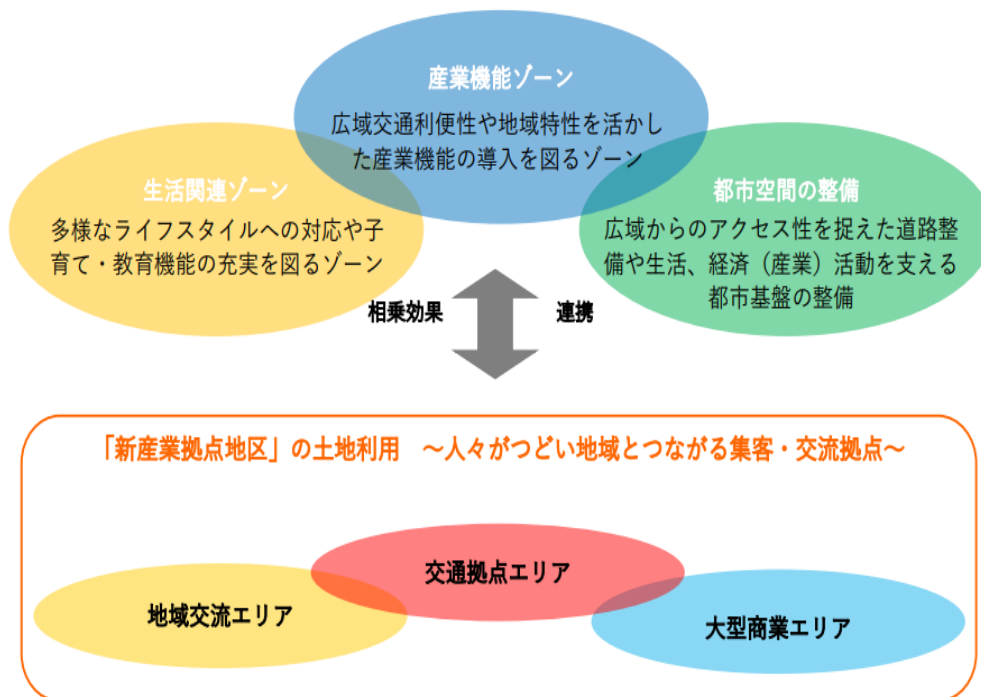
出典：南アルプス I C南地区 地区計画

② 南アルプス I C 周辺高度活用推進計画（2023 年策定）

土地利用区分

本地区※では、産業（仕事）、生活（暮らし）の2つの土地利用区分（ゾーニング）を行うことで、用途の混在を避け、秩序ある安全安心な土地利用を図ります。また、生活、経済（産業）活動を支える「都市空間（都市基盤）」を整備することにより、それぞれの土地利用の質を高めていきます。さらに、「新産業拠点整備地区」と連携し、一体的な土地利用を図ることで相乗効果を生み出します。

※南アルプス I C 周辺整備事業を進めているエリアであり、「新産業拠点整備事業エリア（fumotto 南アルプス）」の北側に位置し、50 ヘクタールから 60 ヘクタールの面積を有する。



出典：南アルプス I C 周辺高度活用推進計画

(4) 本市における課題整理

① 交通利便性の向上

毎年実施している市民アンケートでは、「公共交通で生活に必要な移動ができるか」という設問に対し、肯定的な回答割合は令和7年度で18.7%にとどまりました。また、令和7年度から導入したWell-being指標に関する調査では、「暮らしている地域では、公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動できると思うか」という設問に対する満足度の平均点は、5点満点中2.2点という結果でした。

これらの調査結果は、本市における交通利便性について、市民の評価が総じて低い水準にあることを示しており、移動環境の機能強化が重要な政策課題であることを明確にしています。

◆ 市民アンケート調査結果

質問内容	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市内の道路は、安全に利用できると感じますか。	44.4%	46.5%	43.1%	41.6%	42.5%	38.8%
道路が整備されているため、目的地までの移動時間が短縮されたと感じますか。	51.2%	50.7%	49.5%	47.3%	48.4%	51.8%
公共交通で生活に必要な移動ができると思いますか。	12.4%	14.0%	10.4%	9.4%	11.8%	18.7%
市内の街並みや景観は、美しいと感じますか。	47.0%	49.9%	51.9%	48.3%	51.1%	51.9%
南アルプス市は、住みやすい地域だと感じますか。	61.7%	70.1%	68.5%	66.8%	65.9%	69.8%
南アルプス市に住み続けたいと思いますか。	66.0%	74.2%	73.3%	71.6%	69.8%	72.7%

◆ Well-being 指標における満足度調査（公共交通に関する項目）

暮らしている地域では、公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができると思いますか。		
非常にあてはまる	配点：5点	3.5%
ある程度あてはまる	配点：4点	10.3%
どちらともいえない	配点：3点	23.0%
あまりあてはまらない	配点：2点	30.1%
全くあてはまらない	配点：1点	31.8%
記入無	配点：0点	1.3%
平均点		2.2点

「南アルプス市地域公共交通計画」では、基本方針において、地域交通を支える仕組みづくりについて、本市の目指す地域公共交通を実現させるため、PDCAサイクルに沿った各種公共交通施策の立案、実施、効果検証、改善策の検討などを行うこととしております。

基本方針 3：多様な主体による地域公共交通を支える仕組みづくり

地域公共交通を持続させていくためには、交通事業者の自助努力や行政の支援のみならず、地域に住む一人ひとりが公共交通に興味と愛着を持ち、現在の楡形西地区のコミュニティタクシーのように、その運営・運行、利用促進に主体的に関わるなど、地域全体で公共交通を支えていくことが必要となります。

そのため、地域公共交通サービスに係る情報発信を行うとともに、地域とともに総合的な移動手段のあり方や運営・運行に向けた検討を進めつつ、市の既存の各種イベント時の際に、公共交通に触れる機会を創出するモビリティ・マネジメントの手法を取り入れ、市民、交通事業者、行政等が連携し積極的な利用促進を図ります。

また、本市の目指す地域公共交通を実現させるため、PDCAサイクルに沿った各種公共交通施策の立案・実施、効果検証、改善策の検討など、地域公共交通の適正かつ効果的・効率的なマネジメントを行っていきます。

出典：南アルプス市地域公共交通計画

また、同計画における計画目標において、コミュニティバスの見直しを掲げ、新たな拠点（交流拠点）に接続するなど、ネットワークの再編に向けた検討を行い、利便性の確保などにつなげていくこととしています。

計画目標 1 地域の特性とニーズに対応した効果的な地域公共交通の構築

施策 2 コミュニティバスの見直し

施策概要	コミュニティバスは、南アルプス市の基軸となる公共交通として、まちづくりによる変化や市民・利用者のニーズに対応して、運行の見直しを行います。
実施主体	南アルプス市、交通事業者、その他関係者

【取組内容】

<取組の背景>

- ・コミュニティバスの利用者は増加傾向となっておりますが、新たなまちづくりが進むなど、まちの変化が見られます。こうした需要の変化に対応したコミュニティバスの再編を行うことで、市民のニーズに対応して利便性が高く、かつ持続可能なバスネットワークを構築することが必要となっております。

<取組内容>

【拠点ネットワーク型の形成を目指したコミュニティバスの再編】

- ・まちの変化への対応、日常生活における人の流れとコミュニティバス網のマッチングを図り、最適なバス路線の再編検討を行います。
- ・令和6年度の南アルプスインターチェンジ周辺の開発に伴い、新たな拠点（交流拠点）に接続するなど、ネットワーク再編に向けた検討を行います。例えば、現在のコミュニティバスのルートの一部変更し、新たな拠点（交流拠点）に接続することにより、利便性の確保などにつなげていきます。
- ・コミュニティバスについては、地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）を活用しながら、今後も運行を維持してまいります。

出典：南アルプス市地域公共交通計画

また、交通結節点における環境整備を掲げ、新たな拠点（交流拠点）に対して、各階層（広域、地域間、地域内、市街地内）の交通ネットワークを円滑に接続するための環境整備を推進していくこととしています。

計画目標2 利用しやすい地域公共交通の環境整備				
施策7 交通結節点における環境整備				
施策概要	公共交通同士を接続する拠点において、待合環境の整備、接続強化に関する施策を実施します。			
実施主体	南アルプス市、交通事業者、その他関係者			
【取組内容】				
<p><取組の背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方針で示している、広域幹線ネットワーク、地域間ネットワーク、地域内ネットワーク、市街地内ネットワーク間を接続するための環境整備が必要となります。また、初めて公共交通を利用する場合でもわかりやすく利用できるような環境整備が必要となります。 				
<p><取組内容></p> <p>【拠点ネットワーク型の形成に向けた交通結節点の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、コミュニティバスの交通結節点となっている南アルプス市立美術館、南アルプスインターチェンジ周辺の開発に伴う、新たな拠点（交流拠点）に対して、各階層の交通ネットワークを円滑に接続するための環境整備を推進していきます。 				
	 <p>【交通結節点の整備】 （イーグルバスグループ）</p>			
<p>【誰もがわかりやすい案内板の設置や待合環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 待合環境の向上に向けた取組を進めるため、公共施設、商業施設などと協議し、空きスペースなどの有効活用を検討します。 南アルプス市役所内に路線バス、コミュニティバスの運行時刻や乗り継ぎ情報等の運行情報を示したデジタルサイネージなどの案内板の設置を検討します。 				
 <p>【デジタルサイネージによる情報発信】 （龍ヶ崎市、関東鉄道株式会社）</p>	 <p>【商業施設と連携した待合スペース】 （神奈川県横浜市）</p>			
【取組スケジュール】				
令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
連携箇所の検討、施設等との協議、連携方策の検討		既存施設との連携		
関係者との協議や連携方策の検討		デジタルサイネージの設置などの連携		
評価・検証 ※毎年実施				

出典：南アルプス市地域公共交通計画

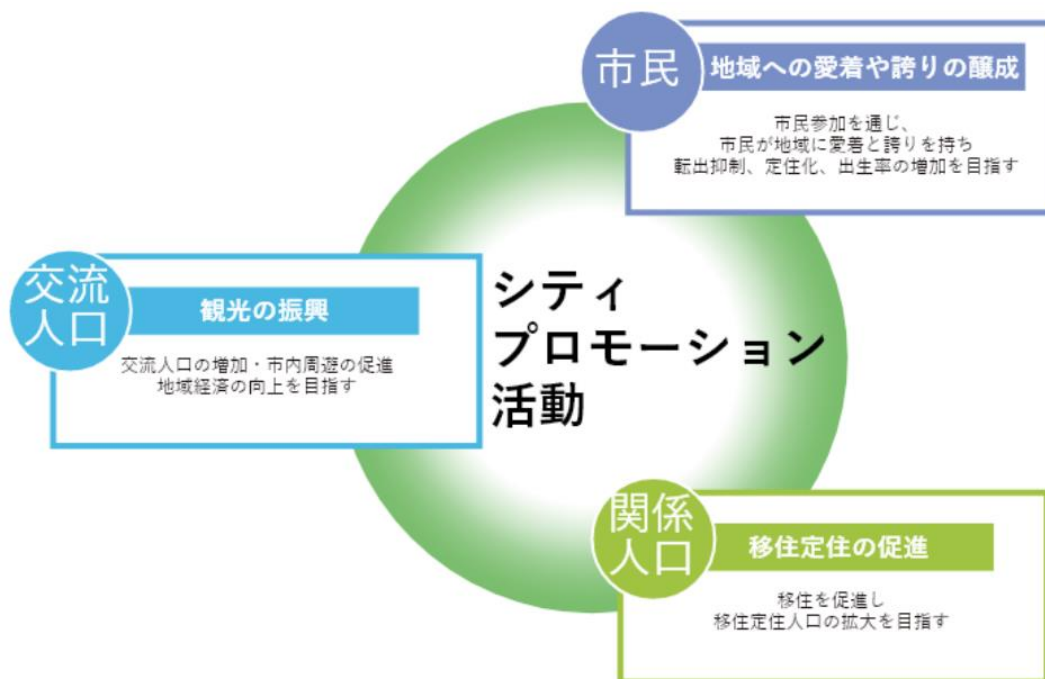
② 観光情報・地域資源の発信力強化

全国的な少子高齢化の進行と同様に、本市においても高齢化率は上昇を続ける一方で、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）や年少人口（15歳未満）の割合は減少傾向にあります。人口構造の変化は、将来的な地域経済規模の縮小や担い手不足につながる重要な課題です。

こうした状況を踏まえ、「第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本目標の1つに「行ってみたいくなるまちづくり」を掲げ、観光振興やシティプロモーションの推進を重要施策として推進しています。

あわせて、「子育てしやすいまちづくり」や「魅力ある住みたいまちづくり」を基本目標に掲げ、地域への愛着の醸成と移住・定住の促進を図ることで、将来に亘り持続可能な地域活性化を目指しています。

そのためには、県内外に向けた情報発信力の強化が不可欠であり、本市の特性や魅力を効果的に伝え、認知度と関心を高めることが求められています。同時に、地域コミュニティの形成に寄与する交流拠点の整備を進め、交流人口の拡大を通じて関係人口創出へと繋げていくことが重要となります。



出典：南アルプス市HP（シティプロモーションの目的と戦略の柱）

③ 交流人口の増加と市内回遊の促進

観光入込客数は、P 4 「(1) 南アルプス市の現状」の「④観光」に示すとおり、令和3年まで減少傾向にあり、その後も令和5年まで低迷が続いています。令和6年には、fumotto 南アルプスの開業などにより、市外からの来訪者数は回復傾向にありますが、一方で、増加する交流人口を特定施設や一過性の来訪にとどめることなく、市内各地への回遊や観光消費、滞在時間の延長につなげていくための施策推進が求められています。

また、2035年以降にはリニア中央新幹線の開業も予定されていることから、こうした好機を逃すことなく的確に捉え、関連施策を一体的かつスピーディに推進し、交流人口のさらなる増加と地域内における回遊促進を図っていくことが重要となります。



出典：南アルプス市HP（シティプロモーション戦略の構成）

2. 道の駅の設置の目的と位置づけ

(1) 道の駅制度の概要

① 道の駅の条件

国土交通省では、道の駅制度の背景、目的、基本コンセプトを次のように位置づけています。

近年、長距離ドライブの増加や、女性・高齢者ドライバーの増加など、道路利用を取り巻く環境が変化する中で、道路交通の円滑な「流れ」を支えるため、一般道路においても、安心して自由に立ち寄り、快適に利用できる休憩のための「たまり空間」が求められています。

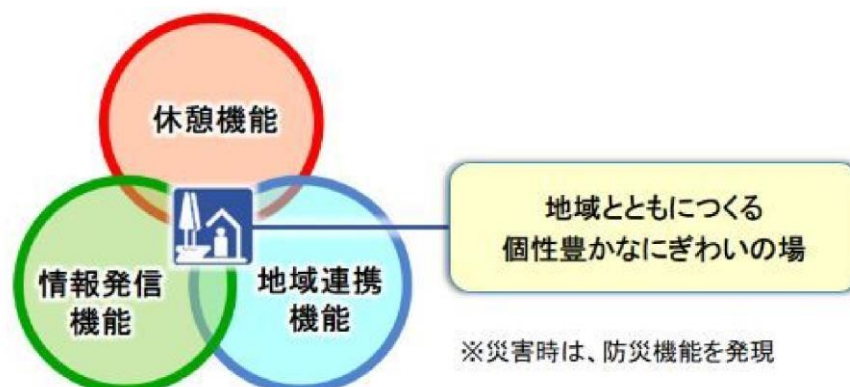
また、人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、画一的な施設ではなく、個性や魅力ある空間へのニーズも高まっています。こうした休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活かした情報提供や、多様で個性豊かなサービスの提供が可能となります。

さらに、これらの施設がにぎわいのある拠点として機能することで、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや、道路を介した地域間連携の促進といった効果も期待されています。

このような背景を踏まえ、道の駅は、①道路利用者のための「休憩機能」、②道路利用者や地域住民に向けた「情報発信機能」、③道の駅をきっかけに地域同士が連携し、活力ある地域づくりを進めるための「地域連携機能」という三つの基本機能を併せ持つ休憩施設として整備されてきました。

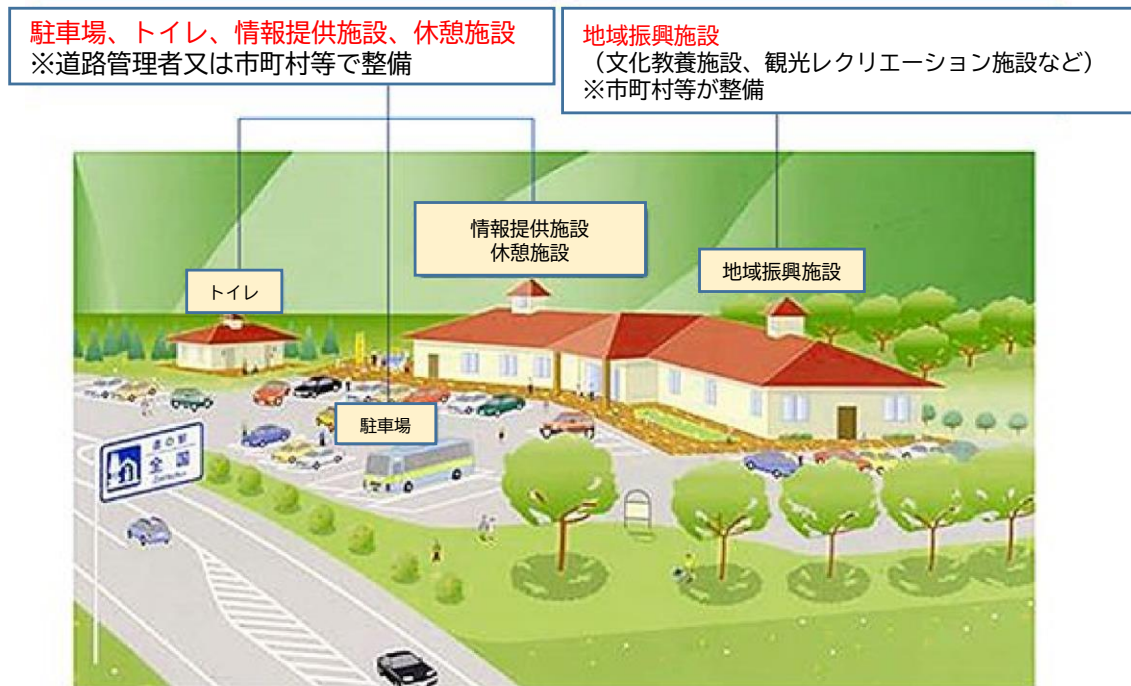
【道の駅の目的と機能】

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



出典：国土交通省道路局HP

【道の駅の施設配置】



出典：国土交通省HP

道の駅は、平成5年（1993年）に登録・案内制度が創設されて以降、道路利用者に対する休憩や情報提供の場として全国各地に整備が進められてきました。

その結果、令和7年6月13日現在、全国で1,230駅が登録されています。このうち、山梨県内においては22駅が登録されています。

② 道の駅に関するこれまでの取組

道の駅は、平成5年（1993年）に制度が創設され、第1ステージとして、道路利用者が安心して休憩できる、「通過する道路利用者へのサービス提供の場」から始まりました。

その後、各地域の創意工夫により登録数は着実に増加し、制度開始時に103駅であった登録数は、平成25年（2013年）には10倍以上となる1,005駅に達しました。

平成25年以降は、第2ステージとして、「道の駅自体が目的地」となり、観光や地域の拠点としての役割を担うなど、その機能や位置づけが段階的に発展してきました。

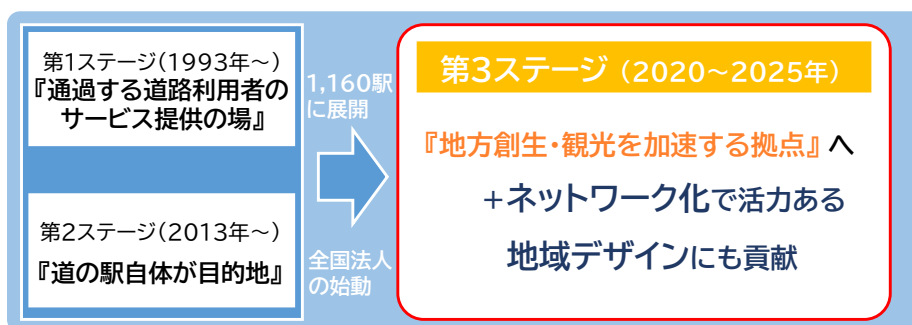
さらに、国土交通省では、平成26年（2014年）から、道の駅を、「地方創生を具体的に実現するための有力な手段」と位置付け、関係機関と連携しながら、地域の核となる特に優れた企画を有する「重点道の駅」を選定し、重点的な支援を行う取組なども進められています。

③ 道の駅第3ステージへ

平成2年（2020年）以降、道の駅は第3ステージと位置付けられ、「地方創生・観光を加速する拠点」としての役割を担うこととなりました。

国は、令和7年（2025年）を目標年次として、道の駅が目指す三つの姿を掲げており、以下に、その内容を示します。

【第3ステージのコンセプト】



出典：国土交通省HPより一部作成

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

- インバウンド観光への対応強化
- 周遊交通の機能強化 等

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域防災の機能強化
- 地域防災の機能強化 等

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる 地域センターに

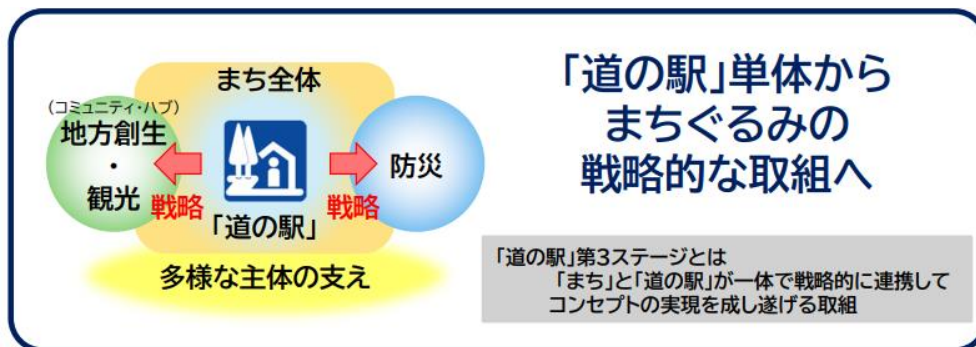
- 子育て応援の強化
- 民間タイアップの強化 等



出典：「道の駅」第3ステージ推進委員会 配布資料

道の駅の第3ステージにおいては、道の駅が持つ自由な発想と地域の主体的な取組を活かし、観光や防災をはじめとした分野において、官民が連携しながら地方創生に向けた取組を一層加速させることが求められています。

また、「まち」と「道の駅」が一体となり、戦略的に連携しながら、コンセプトの実現を成し遂げる姿を目指しています。



出典：「道の駅」第3ステージ中間レビューと今後の方向性
 （「道の駅」第3ステージ推進委員会）

（2）道の駅の登録制度及び整備方法

国土交通省では平成5年2月に「道の駅登録・案内要綱」を公表しています。以下に、「道の駅」設置に係る必要な要件等を示します。

① 登録方法

【設置者】

「道の駅」は、市町村またはそれに代わり得る公的な団体が設置します。市町村に代わり得る公的な団体とは以下の各号のいずれかに該当するものとします。

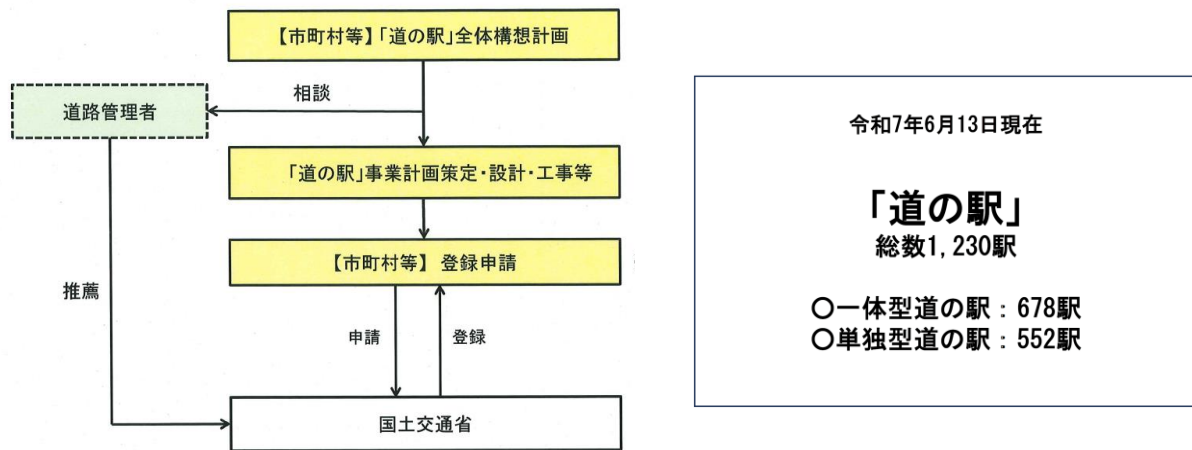
- （ア）都道府県
- （イ）地方公共団体が三分の一以上を出資する法人
- （ウ）地域を代表して「道の駅」を設置するにふさわしいとして市町村が推薦する公益法人
- （エ）市町村から土地・建物の貸与を受け、市町村と管理運営についての協定を締結する法人

ただし、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）第9条に規定する欠格事由に該当する民間事業者は、「道の駅」の設置者となることはできません。

【登録方法】

設置者は、「道の駅」として登録申請することができます。

申請者は、所定の登録申請書等を、当該施設の近傍の一般国道又は都道府県道の道路管理者を経由し、これを道路局長に提出するものとします。



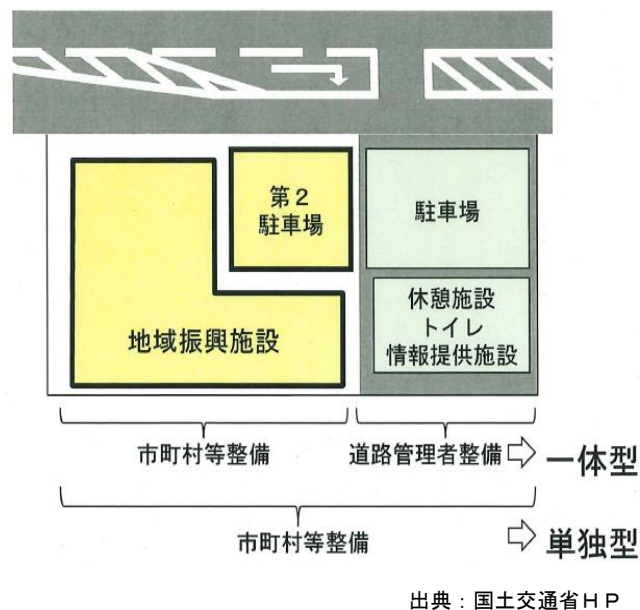
図：道の駅の登録方法

【登録要件】

「道の駅」として登録するには、以下の要件を満たす必要があります。

休憩機能	利用者が無料で24時間利用できる。 ・十分な容量を持った駐車場 ・清潔なトイレ（原則、洋式） ・子育て応援施設（ベビーコーナー等）
情報発信機能	道路及び地域に関する情報を提供 ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等
地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設等の地域振興施設
その他	施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

② 整備方法



一体型	単独型
駐車場・休憩施設・トイレ・情報発信施設の一部を道路管理者が整備し、市の他を設置者（整備主体）が整備する。	道の駅を構成している全ての施設を、設置者（整備主体）が整備する。

（3）道の駅登録のメリット

道の駅登録制度の積極的・効果的な活用により、交流人口の増加とともに、市の玄関口としての価値（＝ブランド）を高めていくこととします。

道の駅登録の主なメリットを、次のとおり示します。

- ・ 全国的な「道の駅」ブランドにより、効果的な魅力発信が図られる。
- ・ 施設やサービスへの安心感・信頼感が高まる。
- ・ 地域の観光拠点として位置づけ、周辺観光エリアへの回遊促進が期待できる。
- ・ 国・自治体・観光団体などとの連携が図られる。
- ・ 平時の際は交流拠点として、有事の際は災害拠点としての役割を担える。

(4) 本構想の対象エリア

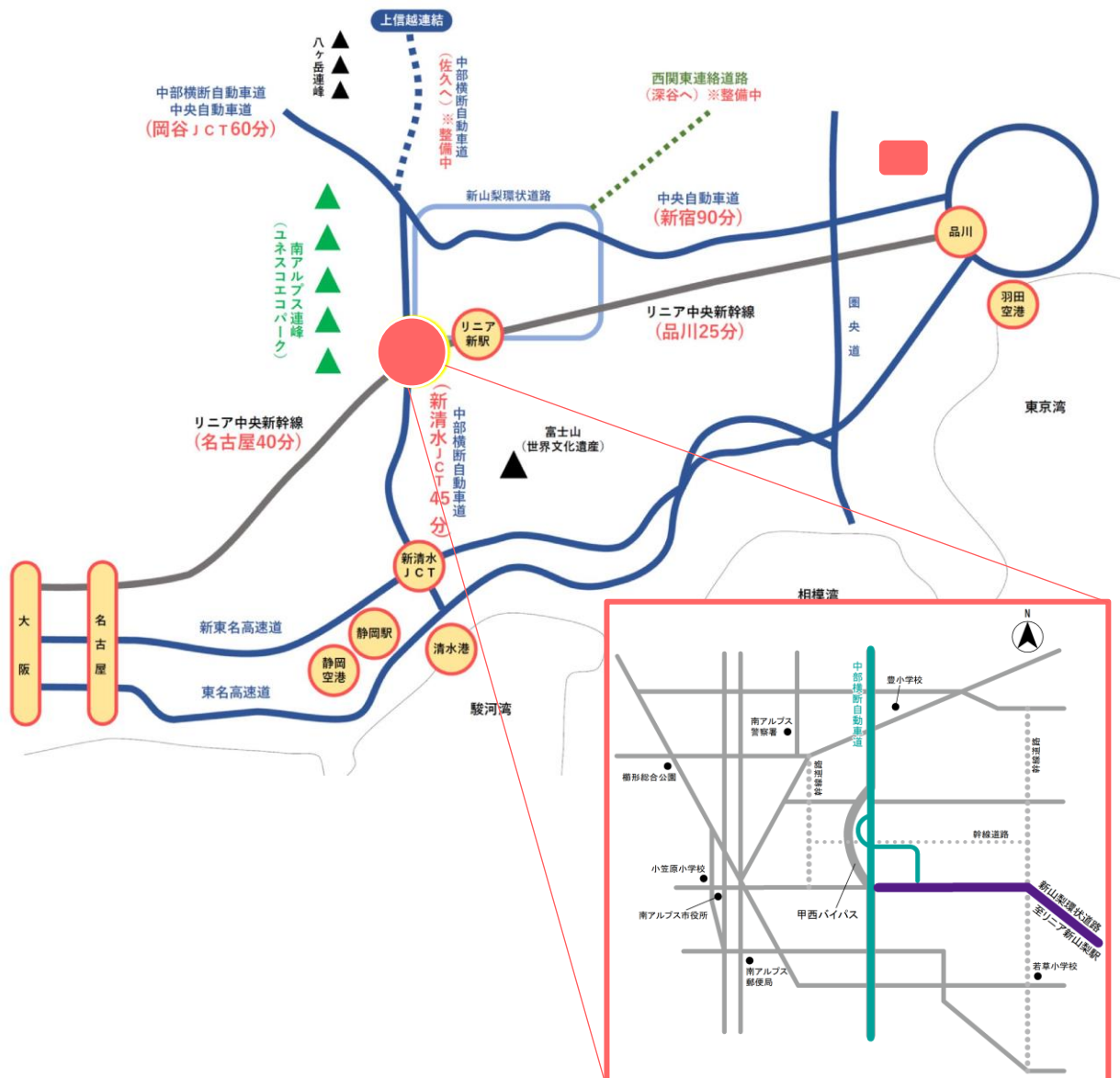
① 立地条件

本構想の対象エリアは、中部横断自動車道南アルプスインターチェンジの南側に隣接し、本市の玄関口に位置しています。

新山梨環状道路と国道52号（甲西バイパス）の沿線に立地しており、将来的には、新山梨環状道路を経由して、リニア中央新幹線の（仮称）山梨県駅や、中央自動車道のスマートインターチェンジへ容易にアクセスできる環境が見込まれます。

こうした立地特性から、本エリアは本市における将来的な交通の要衝として、重要な役割を担うエリアとなることが期待されます。

【道の駅の位置】



② 道の駅登録エリア（fumotto との関係性）

現在、コストコホールセール南アルプス倉庫店をはじめとする周辺施設の来訪者の増加に伴う交通対策として、「観光・交通拠点エリア」を臨時駐車場として運用しています。

本構想では、この「観光・交通拠点エリア」に、既存の「地域交流拠点エリア」を加えた区域を『道の駅 fumotto 南アルプス』として登録し、面的な拠点形成を図ります。

2つのエリアを一体的に運用し、面的な道の駅として整備することで、

- 観光案内機能（＝情報発信機能）
- 交通拠点機能
- 交流拠点機能（＝地域連携機能）

を相互に連動させ、広域からの来訪者を受け入れるとともに、インターチェンジ周辺や市内全域への回遊を促進する拠点としての役割を強化し、本「道の駅」の目的達成を図ります。

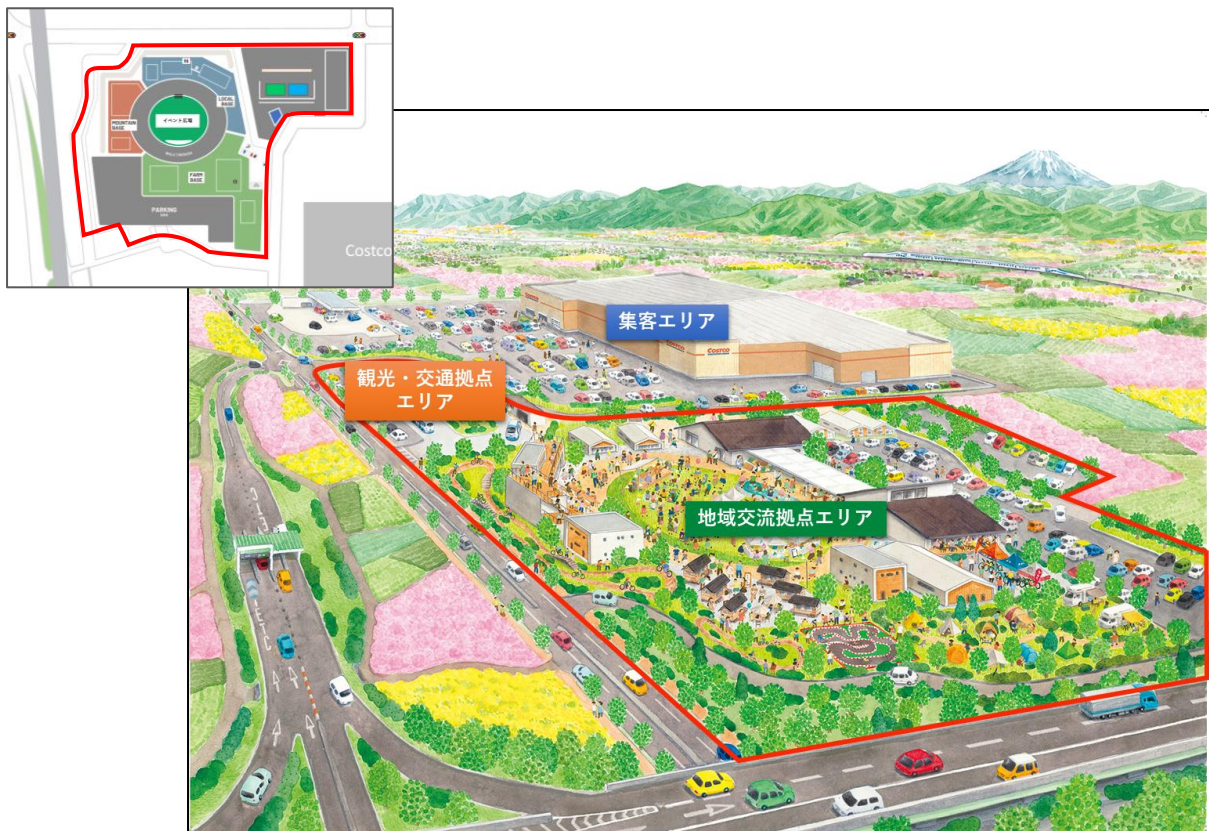
観光と交通拠点
エリア



地域交流拠点
エリア



道の駅 fumotto 南アルプス



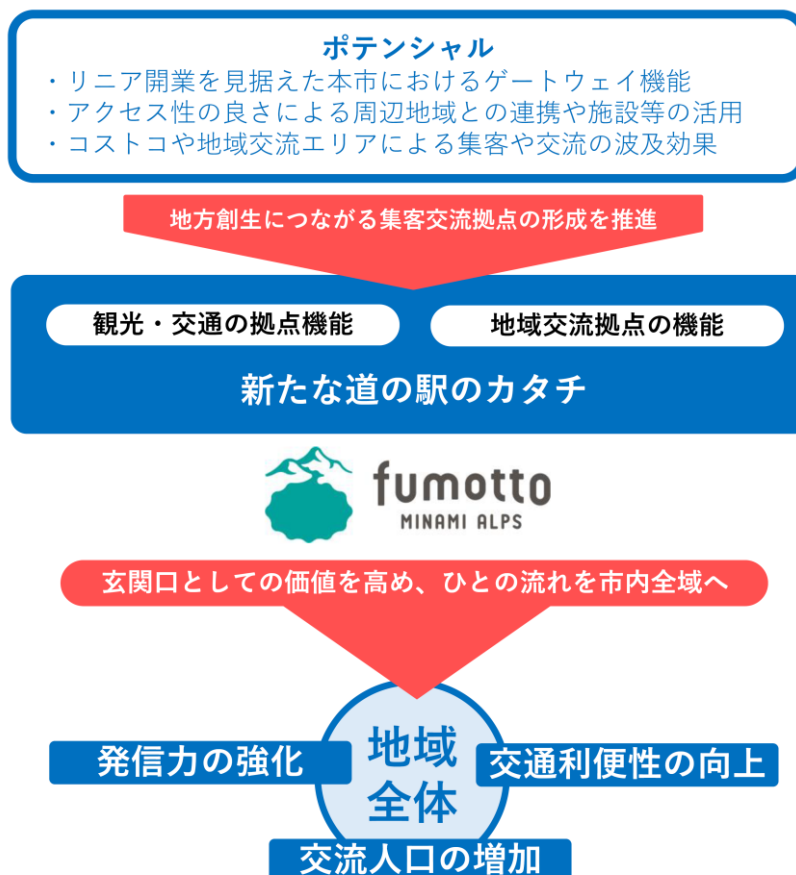
(5) 道の駅の設置目的

南アルプスインターチェンジの南側エリアについては、これまで本市では、「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点」を基本理念として、民間活力による拠点整備を進めてきました。令和6年には地域交流拠点が開業し、さらに令和7年に大型集客施設である「コストコ南アルプス倉庫店」が開業するなど、本市の玄関口において活気と賑わいが創出されています。

当該エリアは、市内外を結ぶ交通の要衝に位置しており、新たな人の流れが生まれていることから、まちの成長と発展を牽引する「まちの玄関口」として、さらなる機能強化が求められており、**地方創生につながる拠点形成を一層推進する必要があります。**

本「道の駅」においては、観光と交通の拠点機能を構築するとともに、既存の地域交流拠点を活かした新たな道の駅のカタチを創出することで、**玄関口としての価値を高め、人の流れを市内全域へ広げていきます。**

これらの取組の結果として、地域全体の**①地域の魅力を効果的に発信、②交流人口の増加を促進、③交通利便性の向上**を図り、南アルプス市の未来を支える拠点づくりを推進していきます。



図：本「道の駅」の目的イメージ

3. 道の駅のコンセプトと名称

(1) 道の駅のコンセプト

本「道の駅」の目的を達成するため、本「道の駅」のコンセプトを以下により設定します。



本「道の駅」は、市の玄関口に位置する「観光・交通拠点」と、地域の魅力を発信する「地域交流拠点 fumotto」が一体となって形成される、**新たな交流拠点** です。

地域交流拠点における取組・充実により、来訪者が **地域とつながる場** を目指し、観光・交通拠点の併設により、来訪者にとっては本市を訪れる際の最初の立ち寄りスポットとして、市民にとっては日常の移動や交流を支える身近な拠点として、人とまち（地域＋情報）が**さらにつながる場** を目指します。

この“**2つのつながる機能**”が有機的に連携することで、まちの玄関口としての価値を高め、周辺エリアや市内全域の回遊性の向上を図り、より広域的な視点での地域活性化を促進します。

**人と人、人とまちがコネクトし、
新たな価値を創造する「つながる道の駅」を目指します。**

(2) 道の駅の名称

本「道の駅」の名称は「道の駅 fumotto 南アルプス」とします。



南アルプスインターチェンジ南側エリア開発の基本コンセプトである「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点を創出する。」の理念を踏まえ、新たな道の駅のコンセプト「ひと・まちコネクト」が生まれました。道の駅 fumotto 南アルプスの展開により、本市の新たな玄関口として、さらなる価値の拡大を目指します。

道の駅の名称となる「fumotto (フモット) 南アルプス」は、2,000 件を超える公募から選考された名称です。名称の由来は、以下のとおりです。

南アルプスの山々の「麓」にある街、
 賑わいと活力を生み、多世代が親しむという施設、
 これらの姿を、『もっと』というキーワードに込めました。



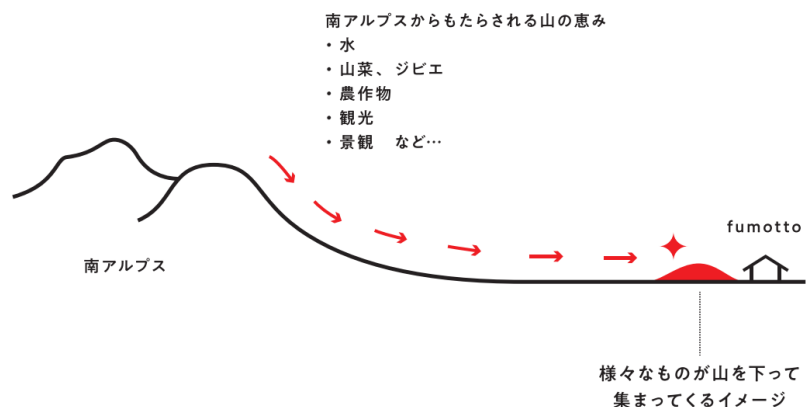
【コンセプト／イメージ図】

◆シンボルマーク

山の麓にある南アルプス市に山の恵が流れ込んで集合し、人々と賑わいが広がっていくイメージにしました。

◆ロゴタイプ

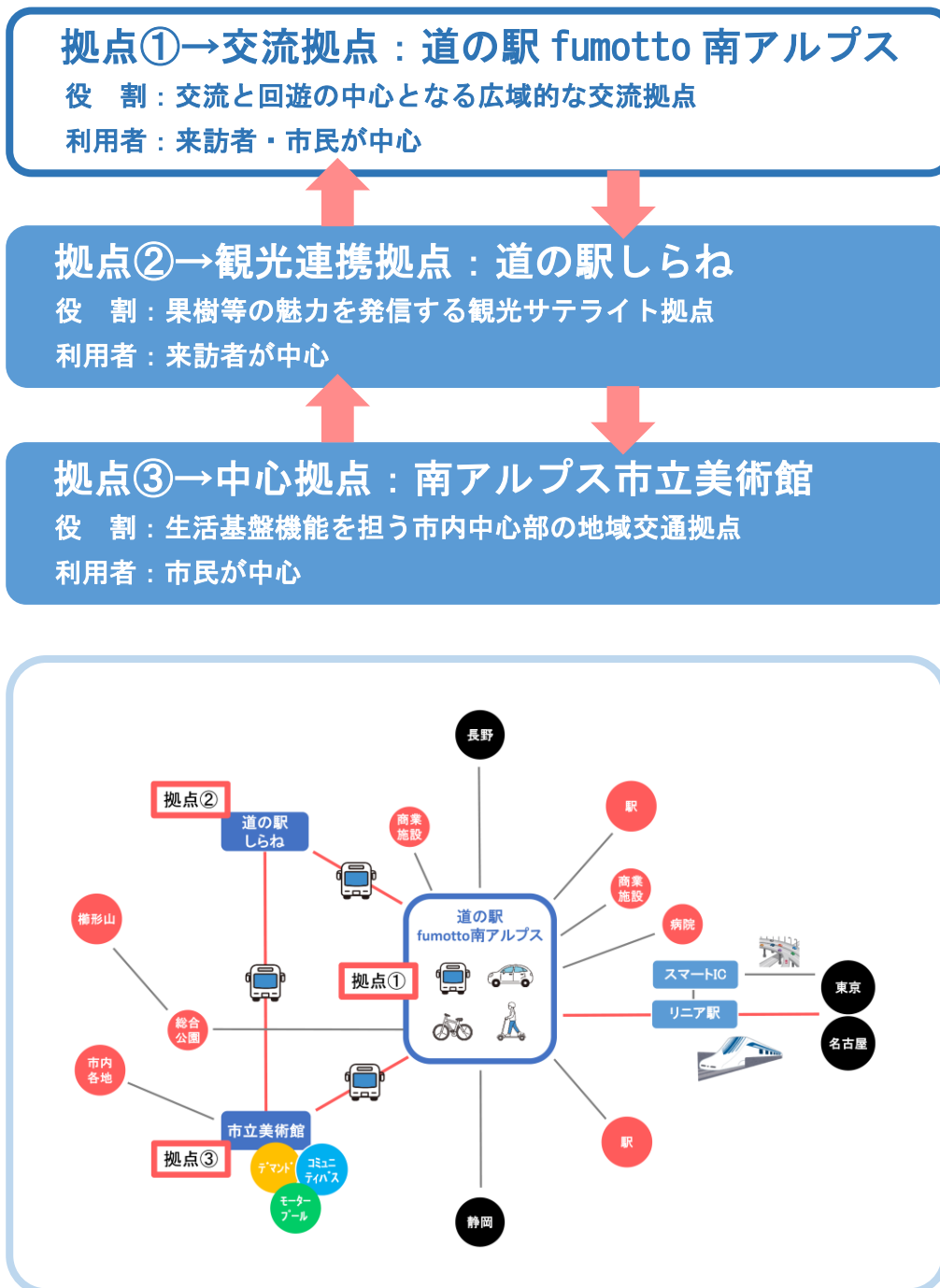
「fumotto」には角がなく丸みの連続で柔らかさがあるため、フレンドリーなイメージにしました。



4. 交通機能の基本的方向性

交通拠点の考え方については、南アルプスインターチェンジ周辺に交通機能を集中させるのではなく、既存のバス路線、市民の生活環境、周辺観光拠点との連携を踏まえ、特色と役割の異なる市内の3つの拠点（①交流拠点・②中心拠点・③観光連携拠点）を結ぶ「面的」な交通ネットワーク拠点を検討します。

これにより、市内に新たな人の流れを生み出し、地域と観光の相乗効果を高めていきます。

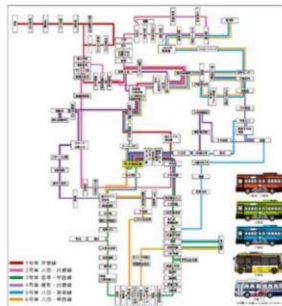


図：市全域の交通ネットワークイメージ

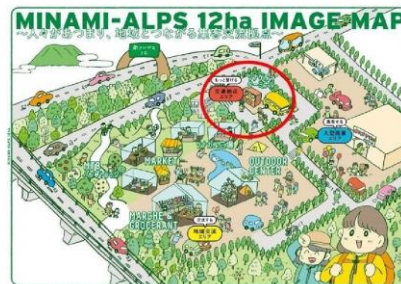
まずは、実証実験を実施し、南アルプス市地域公共交通計画の基本方針に基づき、市民と来訪者のニーズや利用状況、今後のインターチェンジ周辺の開発形態、既存の公共交通施策等を踏まえたうえで、PDCAサイクルに沿った公共交通の検討を行い、リニア中央新幹線開業を見据えた「将来的な交通拠点」について調査研究を進めていきます。

施策2 コミュニティバスの見直し

- コミュニティバスは、南アルプス市の基軸となる公共交通として、まちづくりによる変化や市民・利用者のニーズに対応して、運行の見直しを行います。
- まちの変化への対応、日常生活における人の流れとコミュニティバス線のマッチングを図り、最適なバス路線の再編検討を行います。



▲現在のコミュニティバスのルート図



▲南アルプスIC新産業拠点整備事業の概要

施策5 新たな公共交通の導入に向けた検討

- シェアサイクル（レンタサイクル）、グリーンスローモビリティなどの新たな地域公共交通の導入を検討します。
- 地域や民間事業者との協働により、コミュニティバス等で南アルプス市役所や市立美術館まで移動してきた利用者のラストワンマイルの公共交通としても機能するように、南アルプス市役所周辺の主要拠点にポート（貸出・返却拠点）を設置するなど、中心部周辺を自由に移動できるような交通の導入を検討します。



▲電動キックボード



▲グリーンスローモビリティ（小型EVバス）

施策6 AIデマンド、MaaS、自動運転等の新技術の情報収集・検討

- 実証実験が行われているAIデマンドシステム、MaaS、自動運転の事例収集を行います。また、導入が進み始めているEVバスについても事例収集を行い、導入に向けた検討を行います。



▲EVバス車両

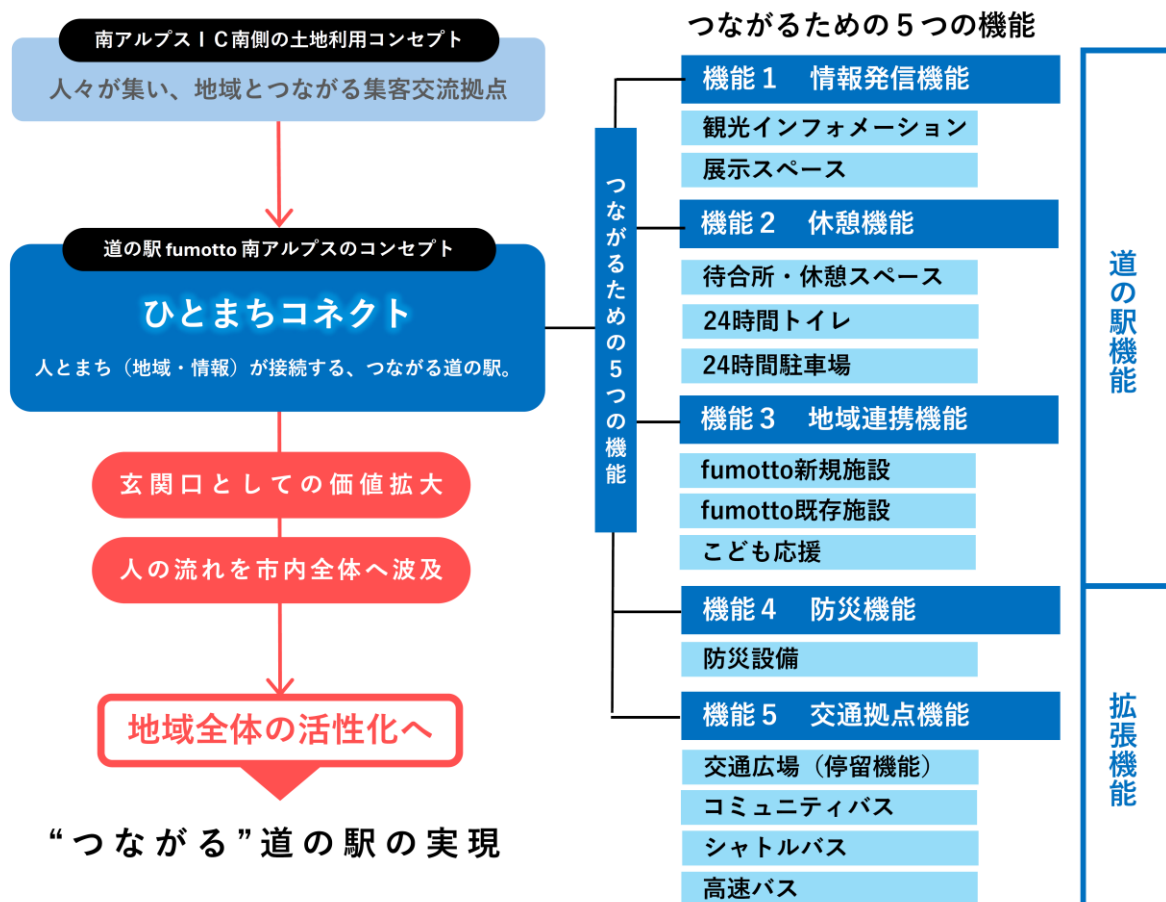
出典：南アルプス市地域公共交通計画概要版

5. 導入機能と設置施設

(1) 導入機能の整理

道の駅 fumotto 南アルプスでは、コンセプトである「ひとまちコネクト～人とまち（地域＋情報）が接続する。つながる道の駅～」や道の駅の登録要件を踏まえ、つながりを生み出すための5つの導入機能を設定します。

これらの機能を一体的に整備・運用することにより、人と人、人と地域の多様なつながりが生まれ、「つながる道の駅」として、地域全体の活性化に寄与することが期待されます。



図：導入機能のイメージ

(2) 設置施設の整理

5つの導入機能を具現化するための施設について、以下により整理します。

設置施設については、「観光案内施設」「交通拠点施設」「地域連携施設」であり、観光・情報発信・交通結節・交流といった役割を相互に連携させることで、目的に掲げた「つながる道の駅」の実現に向けた構成としています。

施設	区分	導入機能	事業案	分類	現運用
観光案内施設	新設エリア	インフォメーション	・無人案内 ・デジタルサイネージ	情報発信機能	臨時駐車場
		展示スペース	・パンフレット ・企画展		
		待合所	・フリースペース ・カフェスペース	休憩機能	
		24時間トイレ	・男女トイレ ・障がい者用トイレ		
24時間ベビーコーナー		・授乳室 ・ベビーベッド・キッズルーム			
24時間駐車場		・駐車場（EV有）約70～100台 ・障がい者・駐輪場			
交通拠点施設		交通設備	・停留所 ・待合所（観光案内所）	拡張機能	
		防災設備	・防災井戸 等		
	新たな賑わい機能	・民間事業	地域連携機能	地域交流拠点	
地域連携施設	既存エリア	FARM（農）ゾーン			・直売所・レストラン ・ベーカリー、肉専門店
		MOUNTAIN（山）ゾーン			・アウトドアショップ ・MTB・フードコート
		LOCAL（地域）ゾーン			・地域の飲食、物販、テナント
		イベント広場	・賑わいイベント ・会場レンタル		

（3）施設規模の整理

交通拠点エリアにおける駐車台数の考え方については、NEXCO 設計要領や定量的データから算定する方法で検討します。今後、基本設計等において、詳細な規模を検討していきます。

参考：開発規模（SA基準）

施設名		算出面積		仕様・数量
駐車場		4,258.0 m ²		153台（小型車140台/大型車10台/身障者用3台）
観光案内所	トイレ	231.0 m ²	401.0 m ²	男性（小6/大5/洗面2/大型ブース1/オストメイト1） 女性（20/洗面4/大型ブース1/オストメイト1/パウダー6） 多目的（1）
	休憩所	170.0 m ²		—

参考：開発規模（PA基準・ハイウェイゾップ[®]有）

施設名		算出面積		仕様・数量
駐車場		1,929.0 m ²		59台（小型車48台/大型車9台/身障者用2台）
観光案内所	トイレ	172.0 m ²	312.0 m ²	男性（小5/大3/洗面2/大型ブース1/オストメイト1） 女性（13/洗面3/大型ブース1/オストメイト1/パウダー4） 多目的（1）
	休憩所	140.0 m ²		—

参考：開発規模（PA基準・ハイウェイゾップ[®]無）

施設名		算出面積		仕様・数量
駐車場		1,929.0 m ²		59台（小型車48台/大型車9台/身障者用2台）
観光案内所	トイレ	163.6 m ²	303.6 m ²	男性（小4/大3/洗面2/大型ブース1/オストメイト1） 女性（12/洗面3/大型ブース1/オストメイト1/パウダー4） 多目的（1）
	休憩所	140.0 m ²		—

（４）施設の整備方針

本市の玄関口である施設として、まちの特徴である山・農園風景などの景観や街並みと調和のとれた仕様により施設整備を進めます。

以下のとおり、施設ごとの基本的な考え方を整理します。

① 観光案内所

- ◆ 民間施設や南アルプスのイメージとの調和を図るとともに、夏場の暑さ対策に配慮したデザインとし、来訪者が快適に滞在できる環境を推進します。
- ◆ 効率的な仕様とし、交通施設との円滑な往来ができる動線を確保します。
- ◆ デジタル技術を活用した案内機能を推進します。
- ◆ パンフレットや文化財等の企画展などを行う展示コーナーを設置します。

情報発信機能の例

○観光案内機能

- ・周辺観光スポット案内
 （観光施設、山岳、果樹、飲食、宿泊など）
- ・観光モデルコースの紹介
- ・イベント情報
- ・多言語対応 など

○待合機能

○防災機能（災害時における各種情報発信）



出典：道と川の駅「花ロードえにわ」

- ◆フリースペースを整備し、居心地の良い空間を提供します。
- ◆休憩のほか、キッズ、ワーク、読書など多様な過ごし方に対応し、観光客から地元学生、子育て世代までが集うコネクト空間を創出します。
- ◆安心・快適・便利を提供する地域ゲートウェイとして、道の駅の価値拡大と回遊性の促進に寄与します。



出典：道の駅「庭園の郷 保内」
 （※現在はレイアウトが異なります。）



出典：株式会社山陰中央新報社
 写真提供：プラス株式会社

② 交通拠点施設

- ◆本構想で示す「交通機能の基本的方向性」のもと、市内の中心拠点や地域内外の拠点との移動を円滑にする交通の結節点として整備します。
- ◆利用者が多様な交通手段を利用して、快適に移動できる環境を提供します。
- ◆道の駅を起点とした回遊性向上と観光振興に寄与します。
- ◆観光案内所と連携した、待合、ミニ交通広場を形成し、効率的な施設整備を行います。

停留所

- コミュニティバス、高速バス、シャトルバスに対応し、以下との接続を検討する。
- 市内中心部（中心拠点）、市内観光拠点

- 県モビリティ拠点構想等と連携した駅、商業施設など市外拠点
- 通学利用
- 将来的にはリニア中央新幹線駅

- ◆道路利用者や来訪者の利便性向上、休憩、安全・快適な利用環境の確保を目的に、24時間駐車場を整備します。
- ◆中高生をはじめ、多様な利用者の利便性向上を図るため、駐輪場を整備します。
- ◆災害発生時には、情報提供、避難者支援、支援物資の集積・配送、交通結節点としてなど、利用者の安全や地域防災に資する防災機能を検討します。



出典：道の駅「和紙の里ひがしちちぶ」©shuntaro

③ 地域連携施設

- ◆既存の地域交流拠点を活用し、「地域連携施設」として位置付けます。
- ◆地域の魅力を発信し、回遊促進や地域経済の活性化に寄与する拠点とします。
- ◆外遊び、体験イベント、キッズメニューなど、こども向けのコンテンツを充実させ、みんなで学び・楽しみ・笑顔あふれる場所を創出します。
- ◆新たな民間施設の導入により、来訪者の滞在時間の延長や地域ブランド向上、若者への訴求や賑わい、収入による維持管理の負担軽減などを図ります。

FARM BASE（農）

- ・直売所フルーツパーラー、ベーカリー専門店、肉専門店、農園レストラン、地域の食材や魅力を楽しむ施設



MOUNTAIN BASE (山)

- ・アウトドアショップ、MTB コース、ミニキャンプ、屋外フードコート
山や自然をテーマとした各種体験



LOCAL BASE (地域)

- ・地域の飲食店、物販ショップ、その他テナント



イベント広場

- ・毎週末に賑わいイベントを開催
- ・地域住民や来訪者が交流できる場の創出

6. 整備計画

(1) 施設配置の検討

施設全体の配置については、既存の地域交流拠点エリアに「地域連携施設」を配置し、新設エリアに、①交通拠点施設、②観光案内施設、③地域連携施設（新設）を配置し、快適に移動できる利用者動線を確保し、施設ごとの連携を優先した配置計画とします。

また、交通の結節点としての役割を担うため、東西南北の各方向からのバスが円滑に乗り入れ・乗り換えできる動線を確保し、誰もが利用しやすい配置計画を検討します。



図：施設配置のイメージ

※新設エリアは、ゾーニングや動線検討の結果を踏まえ、基本設計において効率的な施設配置を検討していきます。現計画は暫定的なものであり、今後の検討結果により変更する場合があります。

(2) 将来的な交通拠点エリアの考え方

道の駅整備後、交通対策や、さらなる交流促進を図るため、道の駅の周辺に新たな臨時駐車場の整備を検討します。

あわせて、道の駅の周辺に、リニア中央新幹線の開業後や新駅整備を見据えた「将来的な交通拠点検討ゾーン」を位置付け、これまでの公共交通における検証・検討結果を踏まえたうえで、将来的な交通拠点機能等の拡充を推進していきます。

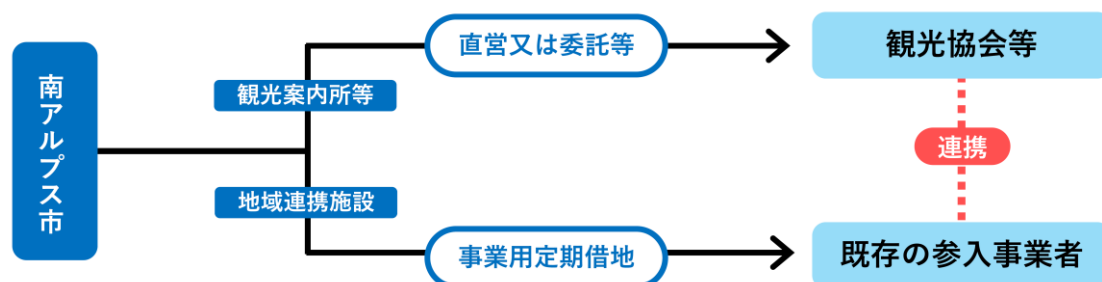


図：将来的な交通拠点エリアのイメージ

7. 管理運営方式の考え方

本「道の駅」の運営にあたっては、施設のうち、公共施設である観光案内施設と交通拠点施設については、市の直営・市からの委託・市からの指定管理等による「公設民営」方式を基本に検討します。

また、民間施設である地域連携施設については、既存の参入事業者へ賃貸し、既存施設との連携・効率的な事業運営を図ります。

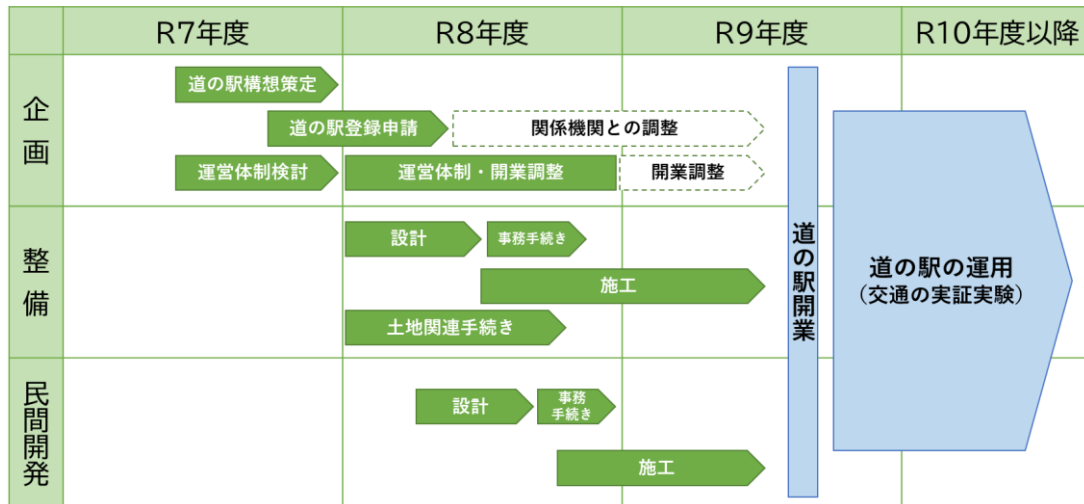


図：管理運営のスキーム案

8. 今後のスケジュール

今後は、道の駅構想を基に、国土交通省への登録手続きや、運営体制の構築、具体的な整備計画・設計を進めていき、令和9年度の開業を目指します。

なお、詳細は、関係機関との検討・協議を行い、具体化していきます。



図：今後の整備スケジュール案

※現スケジュールは現在の想定であり、今後変更となる場合がございます。

(仮称) 道の駅 fumotto 南アルプス基本構想

発行日：令和 8 年 3 月

発 行：南アルプス市役所

〒400-0395 山梨県南アルプス市小笠原 376

TEL 055-282-1111 (代) FAX 055-282-1112

<https://www.city.minami-alps.yamanashi.jp>

編 集：総合政策部政策推進課

